

ピラーン通信 17号

— 助産婦ジョジョのクリニック日誌より —

<2月>

3日：バリテ、モンゴカヨ、サムラングのヘルスワーカーから1月の患者の報告あり。

最も多い症状は咳で、22名、続いて下痢10名、熱、外傷、風邪が各8名。その他。

6日：モンゴカヨのヘルスワーカー、セレナがコミュニティ用に薬を請求。合計約60錠渡す。

この日熱や咳が続く3歳、5歳、26歳の患者がやってきたので薬を処方。

15日：アトゥモロックとサムラングのヘルスワーカー、レスリー（分校教師でもある）とリディアが各コミュニティ用の薬を請求。

この日、2週間以上熱と悪寒が続くキアミからのマイケル（11歳）をG.サントス地方病院に入院させる。

24～25日：ダタール・サファング・コミュニティを訪問し、医療相談を受けるとともに住民に常備医薬品を配布した。

<3月>

2日：バリテから来たカルリト（22歳）は、3週間続く下肢のむくみ、咳、熱のため、G.サントス地方病院で受診。薬が処方した。

6日：クラオから来たアルバート（10歳）は、3日以上下痢と嘔吐が続いたので、病院で受診させた。

同日とどいた各コミュニティのヘルスワーカーによる2月の患者数：咳23名、熱22名、下痢12名、回虫症10名その他。

13日：サムラングのヘルスワーカー・リディアの要請で、コミュニティ用に各種の薬60錠を渡す。

この日、フレッシュメッド薬局に医薬品代P1,976ペソ支払う。

私たちの医療支援：

HANDSの活動は、サムラングでの最優先課題だった医療支援から始まったため、正会員の会費は、主としてサムラングのKlawil Gutnga(ライフセンター)運営費として、医療費や生活改善の事業費に充てていました。

サムラング住民組合が順調に機能するようになり、私たちの隔月1,800ドルの定期送金分で、広くCMBが支援するピラーン族コミュニティ住民の医療を支えることができるようになりました。さらに、会費の一部、及びご寄附は、医療支援を必要でなくなる日を目指す各種自立促進事業支援にも使われています。

クリニックがあるのはサムラングだけですが、ジェネラルサントスのノビシエイトに、助産婦ジョジョが詰める医務室があり、支援を求めて山からやってくる患者に薬を処方し、病院での治療、入院の世話をしています。各地での医療相談、ヘルスワーカー指導、巡回無料診療の企画も彼女Mrs. Jocelyn F. Tripoli(ニックネームはジョジョ)の仕事です。

今回CMBの年間予算書を入手し、ヘルス・プログラムにおいてはHANDSの医療支援の比重が極めて大きい(9割以上)ことが改めて確認できました。一方で、下記のように、住民が相応の負担をする動きもあると知り安心しました。

* * * * *

<グリーンカード - 医療互助システム ->

サムラング、アトゥモロックでは、世帯当たり一日1^{ドル}提出するグリーンカードシステムが発足しました。年間365^{ドル}(約1,100円)までは無料、それを越える医療費については、半額自己負担となります。両コミュニティの拠出金合計は推定月額77ドルで、私たちの医療支援額の1割弱になります。モンゴカヨでも実施に向けて話し合いが始まっているとのことです。(山崎)

— リチャードの皮膚炎ほぼ回復 —

16号で紹介したリチャード(小学校1年11歳)は、

顔の皮膚炎がほぼ回復し、

すっかり自信を取り戻したとの嬉しいニュースがキアミから届きました。

(写真は、終了式の日、みんなの前で挨拶をするリチャード)

